

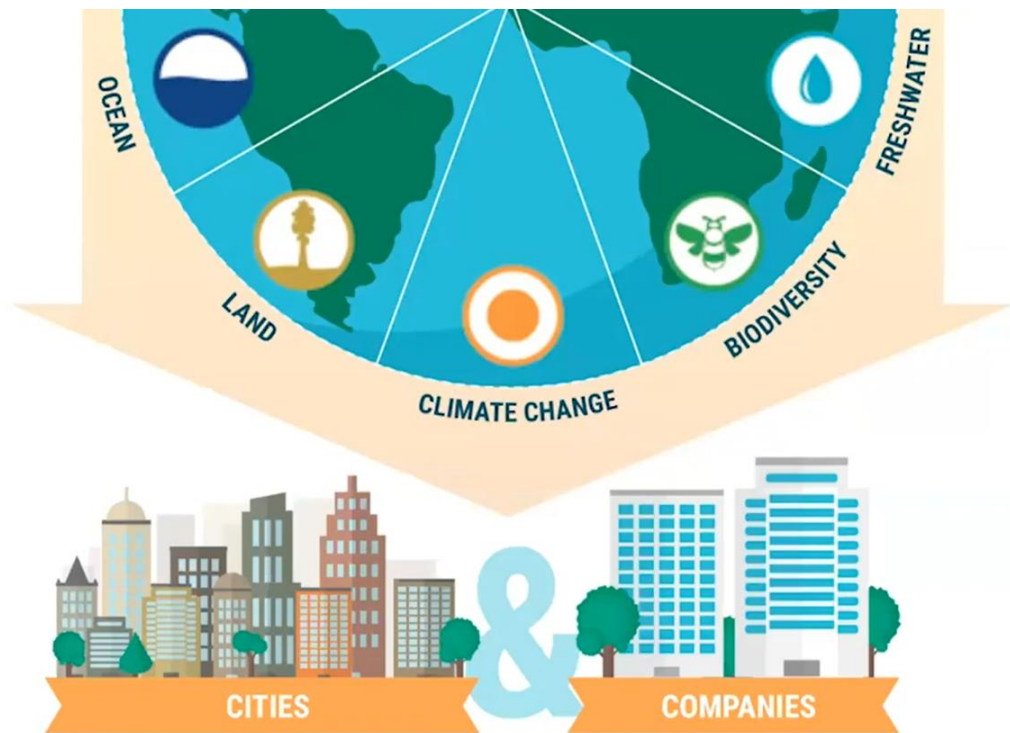
ネイチャーSBTs

岡田 実奈美
CDPジャパン プロジェクトマネージャー

2022年11月25日

ネイチャー—SBTs 概要

【アクションの促進】 ネイチャーSBTs (SBTs for Nature)



Within Earth's limits

(出典：SBT FOR NATURE: INTRODUCTORY WEBINAR)

SBT =

Science Based Target

地球の限界と社会的持続可能性目標に整合する、測定、実行が可能
で期限のある目標であり、利用可能な最善の科学に基づくもの

企業と都市が、
環境的制約がある中で、科学的根拠に
基づいた目標設定を通して、社会的に
公平な基準で活動する世界を目指す

淡水・海洋・陸上・生物多様性に
関するSBT設定の方法論を2025年までに策定

ネイチャーSBTsとは。

"...測定可能、実行可能、期限付きの目標、利用可能な最善の科学に基づく..."



GHG排出
量の削減
排出量



淡水資源の
保全と水セ
キュリティ



生物多様性
と生態系
サービスの
サポート



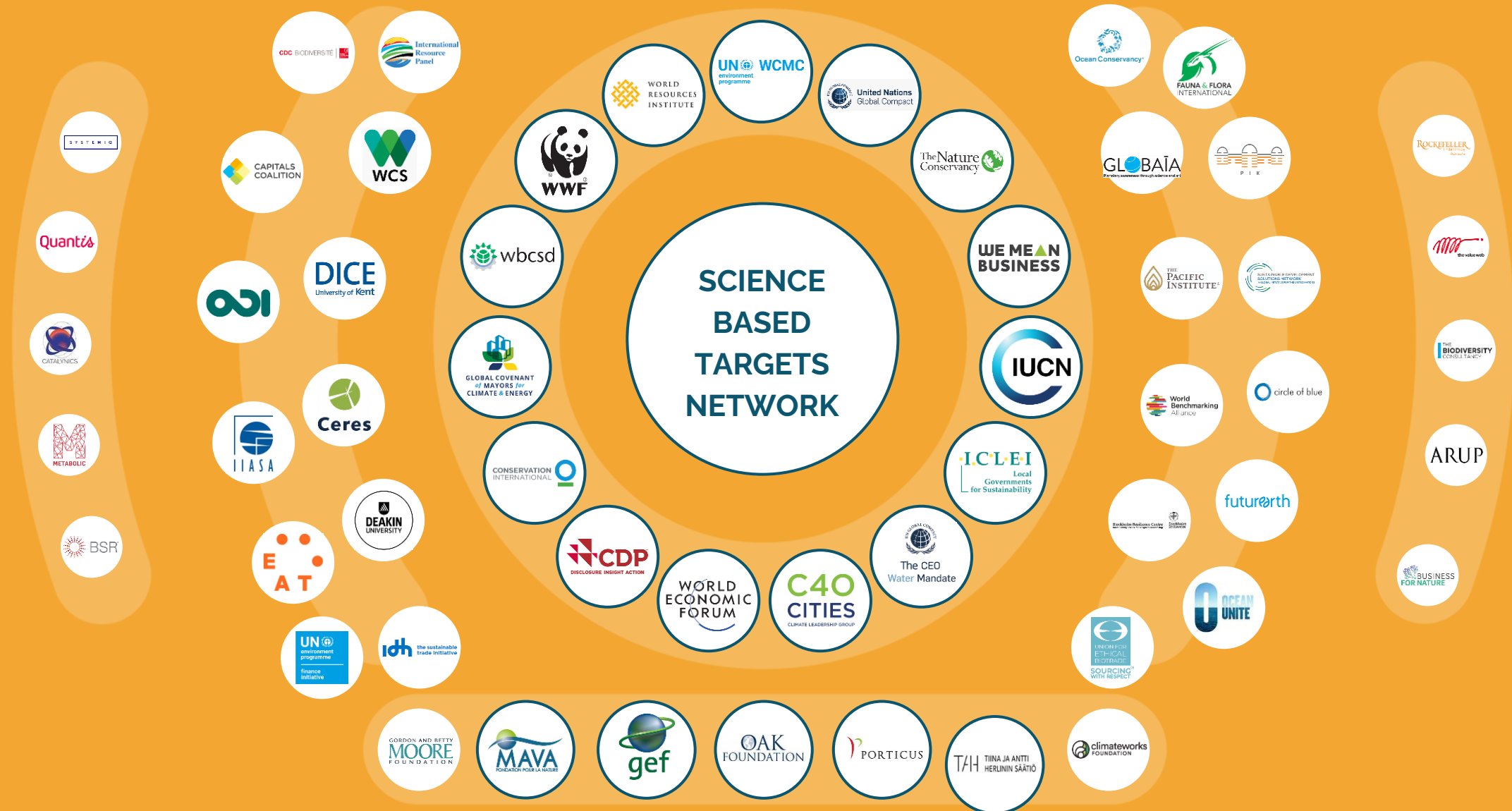
土地システ
ムの保全と
再生



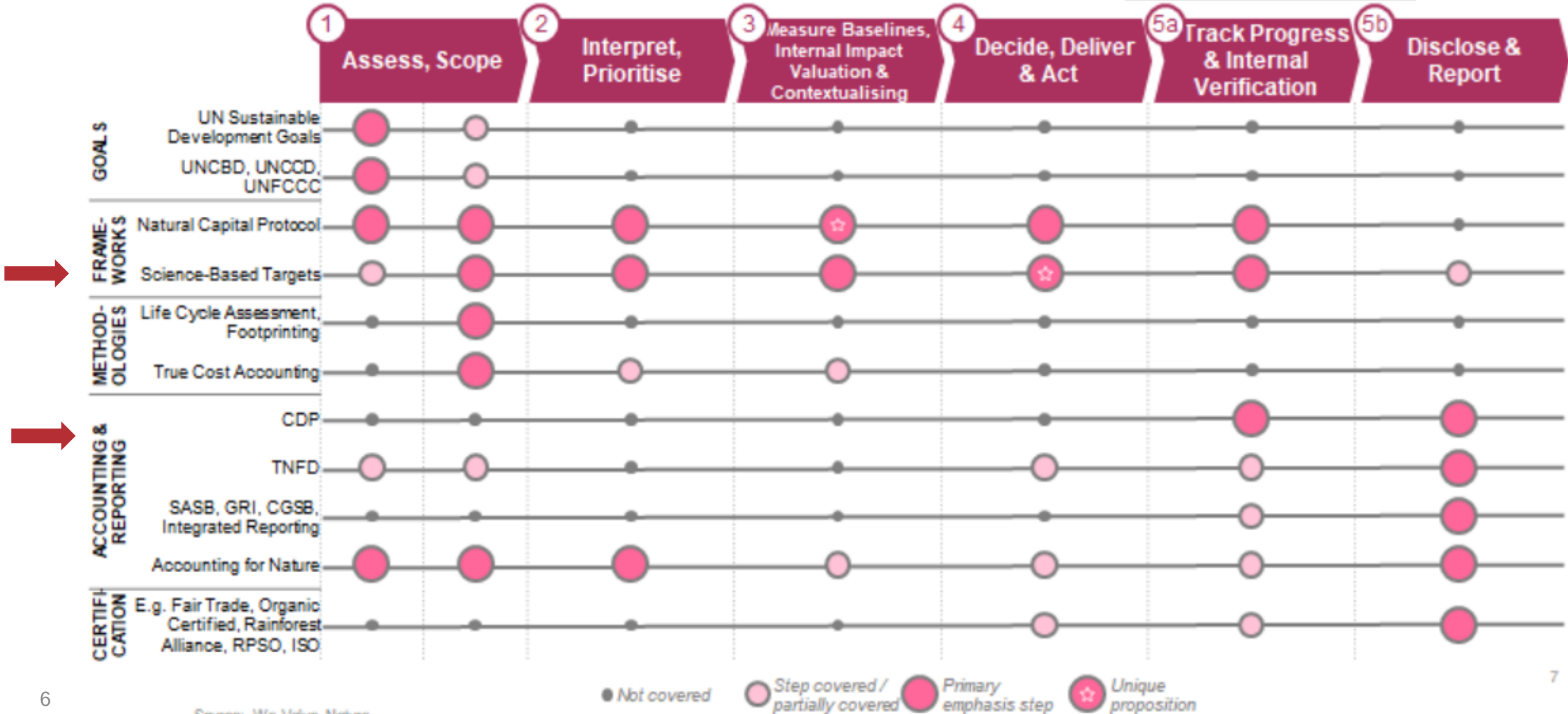
健全で多様
な海洋の確
保

- SBTネットワーク（SBTN）による開発管理
- 4つのワーキンググループ「ハブ」／課題範囲ー淡水、海洋、生物多様性、陸上
- 対象範囲は、直接操業とサプライチェーン上流段階（現時点）
- 対象ユーザーは業種に関係なく企業

SBTネットワーク (SBTN)



ネイチャーSBTsと 他のネイチャーに基づくイニシアチブとの違い



ビジネスにおけるメリット

自然環境への影響に対応するメリット

- よりレジリエントなサプライチェーンとリスクの低減
- 投資家の信頼向上
- 収益の改善
- 政策や規制の変更に事前に備える

SBTs目標設定のメリット

- 一貫した測定
- 整合性のあるフレームワーク
- 信頼性の高い方法論
- 統合されたアプローチ

タイムライン

2020
ネイチャーSBTs
初期ガイダンス

基礎構築

2023 第1四半期
ネイチャーSBTs
第1版

限定的なセクターと
方法論の発表

2023年時点
対象セクター：
食品、飲料、農業

2024
ネイチャーSBTs
第2版

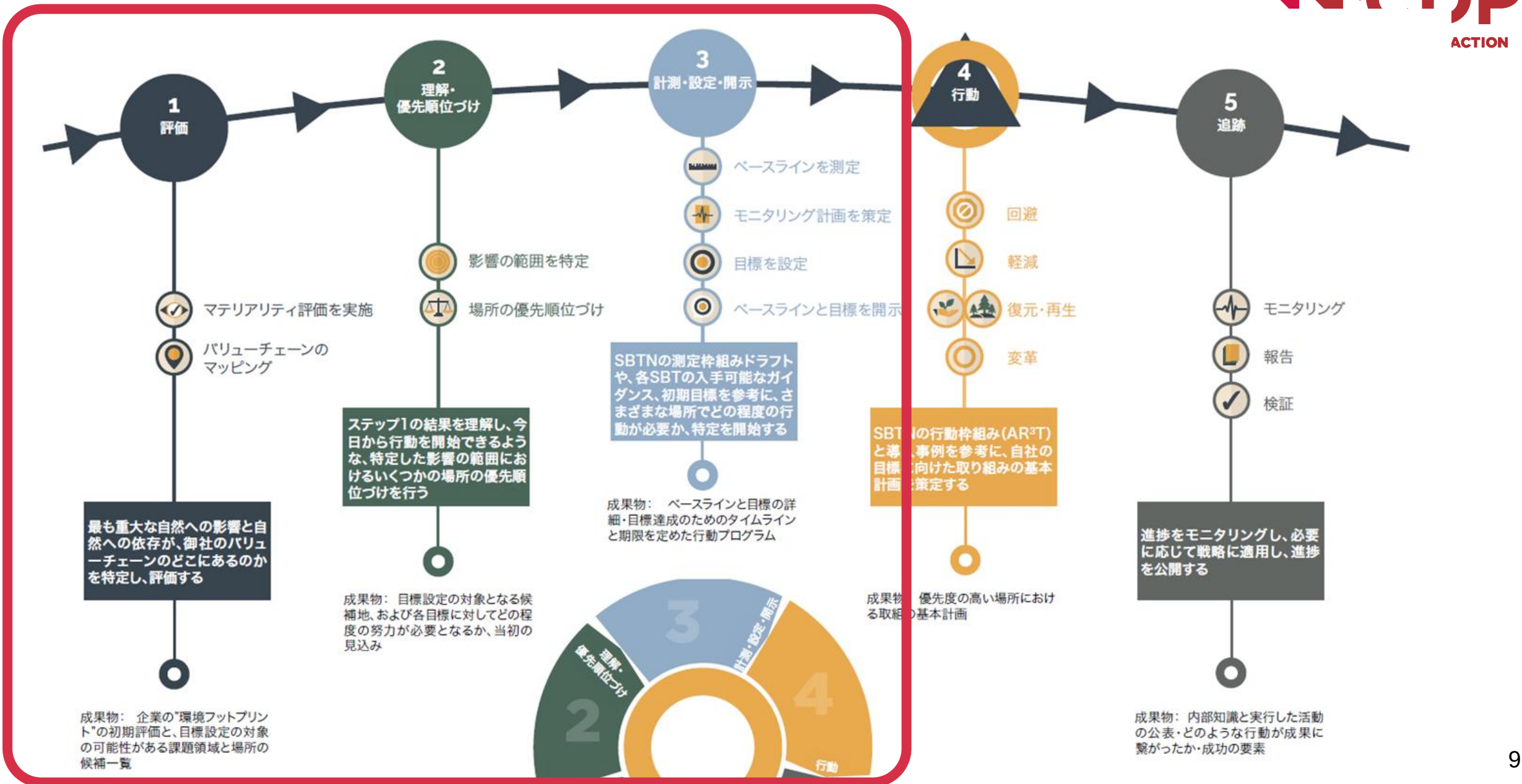
対応セクター、
方法論の追加

2025年
ネイチャーSBTs設
定のための方法論

包括的な企業向け
SBTs

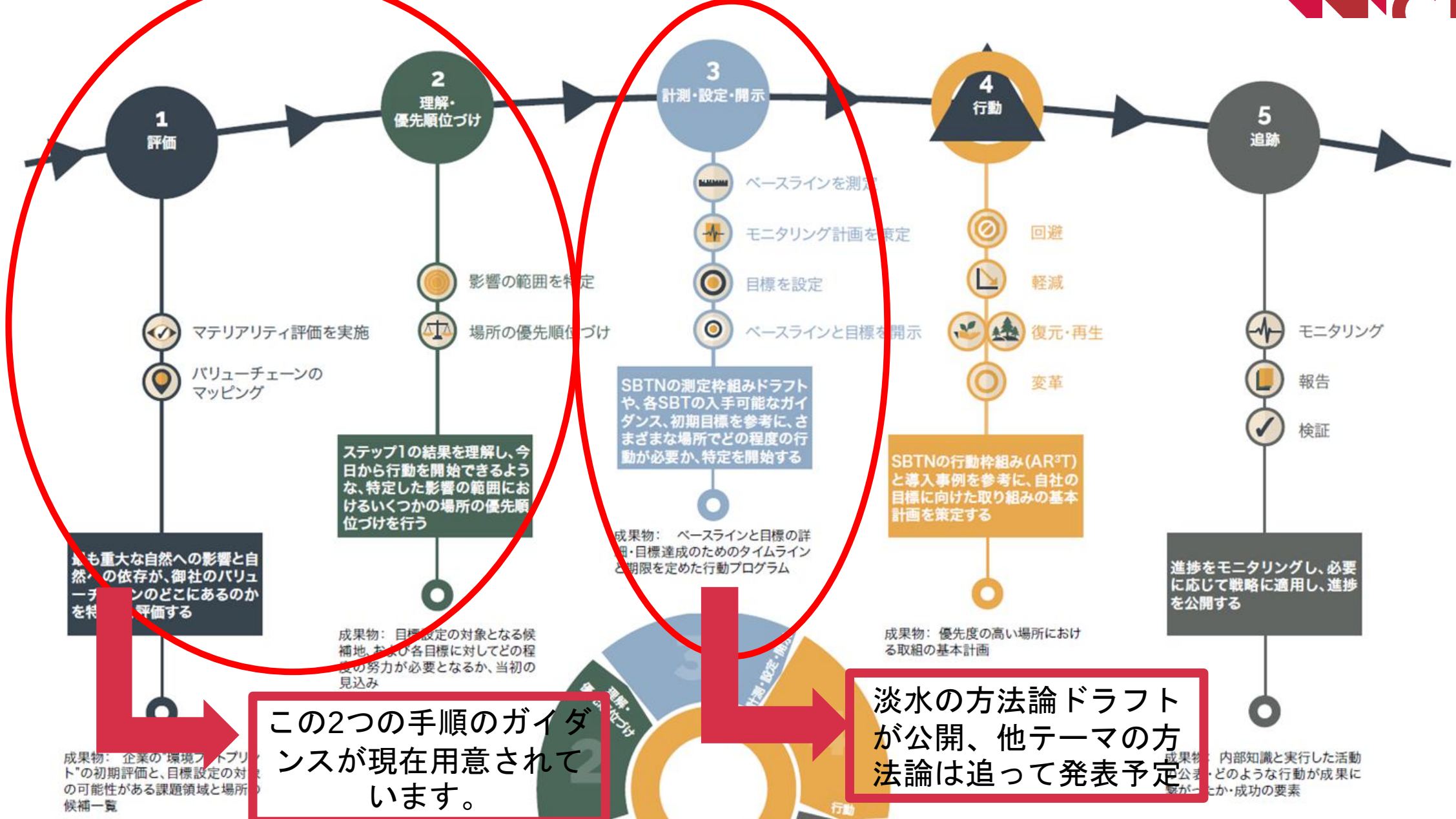
ネイチャーSBTs設定の手順

TNFDのLEAPアプローチに近い考え方



ネイチャーSBTs設定の5手順

TNFDのLEAPアプローチに近い考え方

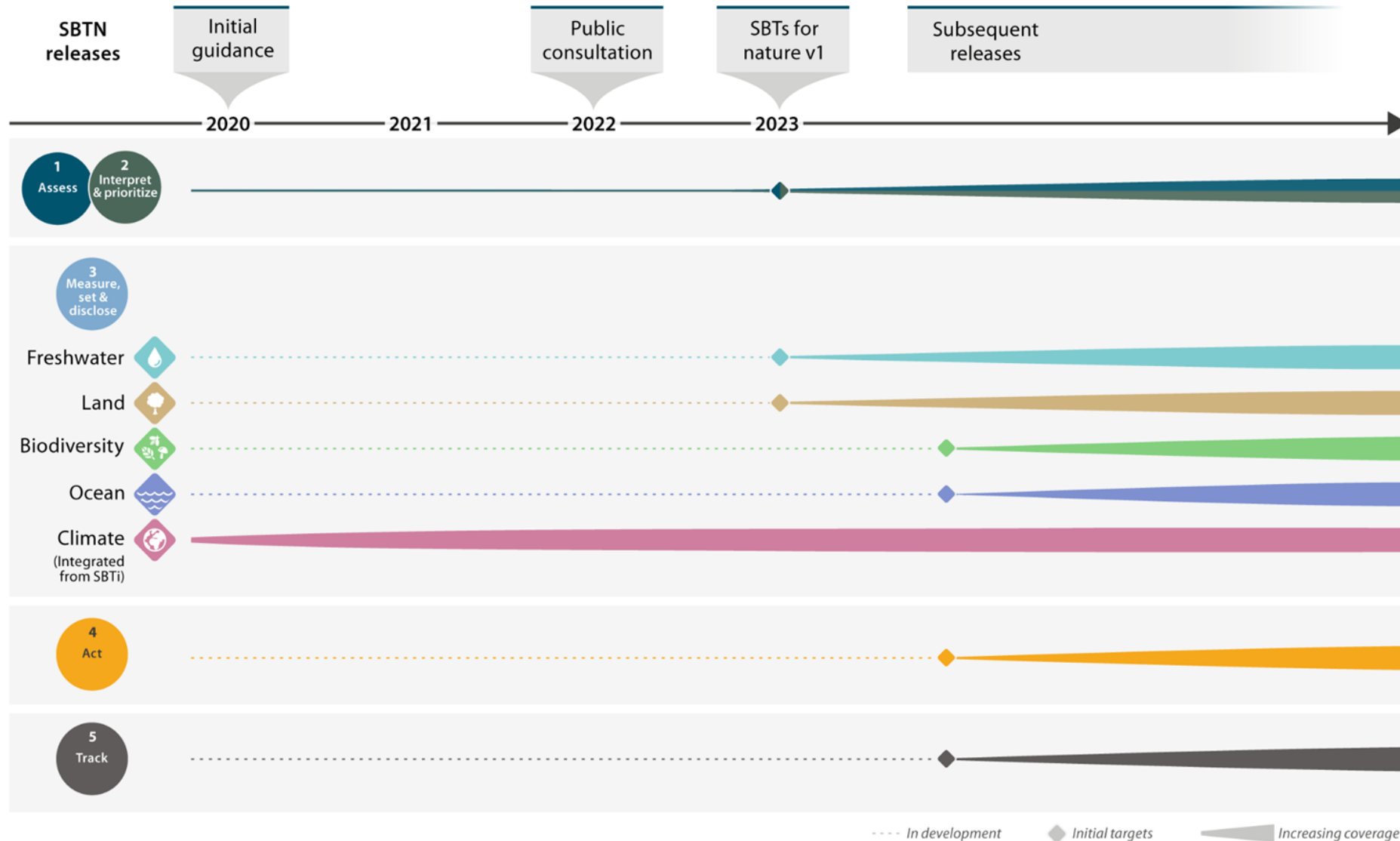


この2つの手順のガイダンスが現在用意されています。

淡水の方法論ドラフトが公開、他テーマの方法論は追って発表予定

他の3つのテーマの状況は。

SBTN Roadmap



淡水と土地利用に関する技術ガイダンスが公開予定、

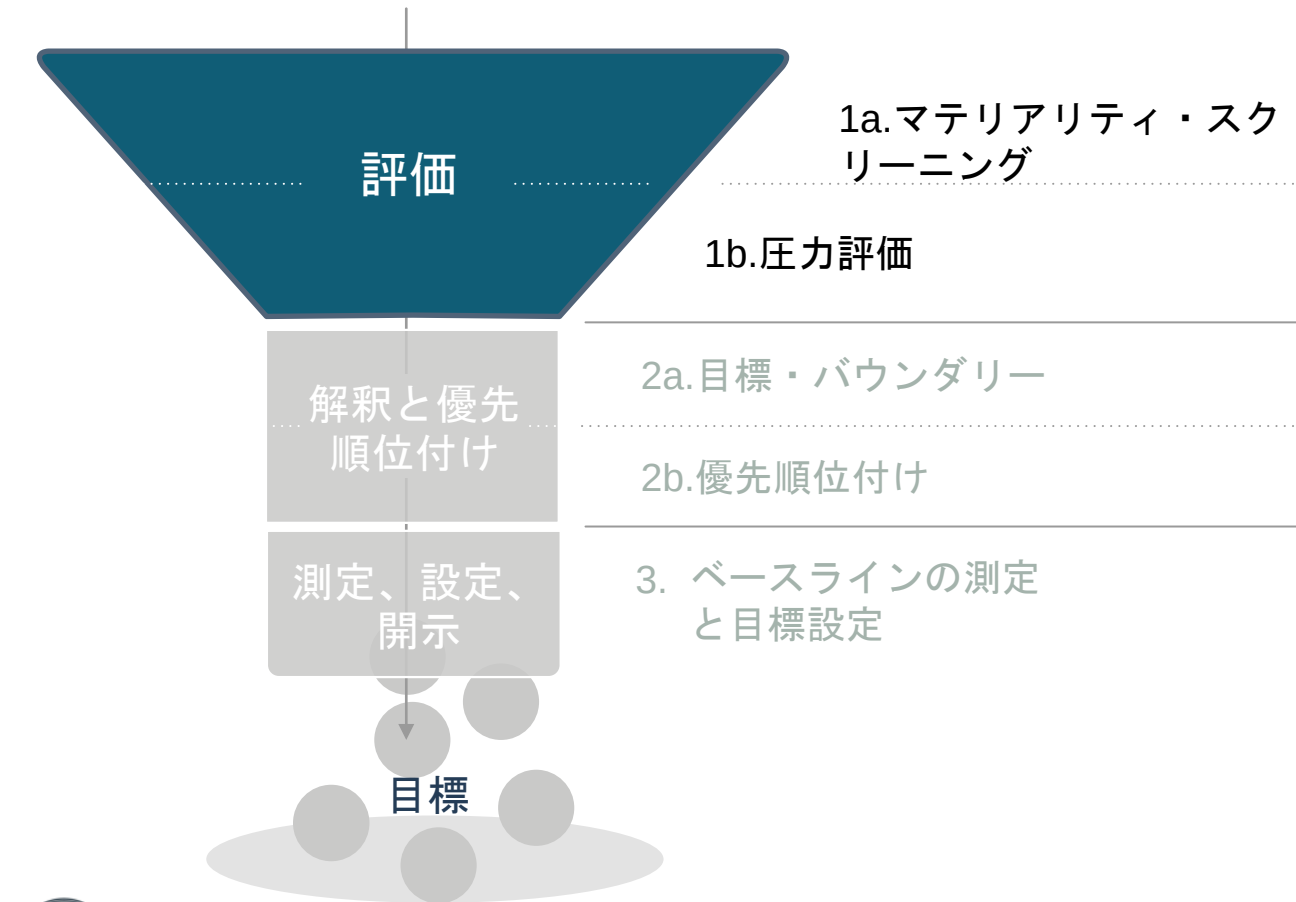
生物多様性と海洋については、その後の公開となる予定

SBTN・・・
SBTネットワークを指す

ネイチャー-SBTs 設定までの具体的な手順

手順1：評価

企業への影響を総合的に評価する



- 1 自社が環境に与える影響は。
- 2 これらの影響のうち、重要なものはどれか。
- 3 どのような影響に対して目標を設定しなければならないか。

手順1：評価

現時点のガイダンスに含まれている具体的な内容

1. 必要とされるデータの種類
2. マテリアリティのスクリーニングプロセス
 - a. スコープの定義
 - b. 直接事業および上流段階における、セクターレベルでのマテリアリティの評価方法
 - c. 圧力（自然への圧力）の具体的な分類と測定尺度の特定
3. 自然の状態State of Nature (SoN)を特定するための空間・データ取得ツール
4. 仮想のケーススタディ
5. 妥当性基準

圧力区分の特定

圧力（Pressure）とは

環境状変化させた人為的な活動、
または生態系の構造、機能、構成
に直接的な変化を与えるもの。
自然への圧力

黒字のカテゴリーは、Ver.1で対応する予定です。
グレーのカテゴリーはVersion 2で対応予定です。

IPBES Pressure Category	SBTN Pressure Category
Ecosystem use and use change	Terrestrial ecosystem use and use change
	Freshwater ecosystem use and use change
	Marine ecosystem use and use change
Resource exploitation	Water use
	Other resource use (minerals, fish, other animals, etc.)
Climate change	GHG emissions
Pollution	Non-GHG air pollutants
	Water pollutants
	Soil pollutants
	Solid waste
Invasives and other	Disturbances
	Biological alterations/interferences

圧力区分の定義



IPBES Pressure Category	SBTN Pressure Category
Ecosystem use and use change	Terrestrial ecosystem use and use change
	Freshwater ecosystem use and use change
	Marine ecosystem use and use change
Resource exploitation	Water use
	Other resource use (minerals, fish, other animals, etc.)
Climate change	GHG emissions
Pollution	Non-GHG air pollutants
	Water pollutants
	Soil pollutants
	Solid waste
Invasives and other	Disturbances
	Biological alterations/interferences

圧力の測定単位

IPBES Pressure Category	SBTN Pressure Category
Ecosystem use and use change	Terrestrial ecosystem use and use change
	Freshwater ecosystem use and use change
	Marine ecosystem use and use change
Resource exploitation	Water use
	Other resource use (minerals, fish, other animals, etc.)
Climate change	GHG emissions
Pollution	Non-GHG air pollutants
	Water pollutants
	Soil pollutants
	Solid waste
Invasives and other	Disturbances
	Biological alterations/interferences

= km² またはヘクタールの換算値または使用量

= m³ または km³ 各ソース（地表および地上）ごとに使用。

= 産業活動および陸上からの排出量あたりのGT CO₂ eq.

= kg N または P eq.

= mol N, P, H⁺ eq./ha

黒字のカテゴリーは、Ver.1で対応される予定
グレーのカテゴリーはVersion 2で対応予定

マテリアリティ評価の定義

(セクター別マテリアリティツールによる)

目的：

企業の部門に関連する潜在的な環境影響の種類を最初にスクリーニングする

		ISICの説明	牛や水牛の飼育	
		製造工程	大規模	小規模
上流	土地・水・海の利用変化	陸域生態系利用	高い	高い
		淡水生態系利用	中程度	M
		海洋生態系利用	M	M
	資源開発	水使用量	M	M
		その他の資源利用	ND	ND
	気候変動	GHGs排出量	非常に高い	非常に高い
	公害	非GHG大気汚染物質	L	L
		水質汚濁物質	M	M
		土壌汚染物質	L	L
		固形廃棄物	M	M
	外来種・その他	ディスタープ	L	L
		生物学的変化／干渉	ND	ND
直接操業	土地・水・海の利用変化	陸域生態系利用	非常に高い	非常に高い
		淡水生態系利用	ND	ND
		海洋生態系利用	ND	ND
	資源開発	水使用量	非常に高い	高い
		その他の資源利用	ND	ND
	気候変動	GHGs排出量	高い	高い
	公害	非GHG大気汚染物質	高い	高い
		水質汚濁物質	M	M
		土壌汚染物質	M	M
		固形廃棄物	L	L
	外来種・その他	擾乱	ND	ND
		生物学的変化／干渉	M	M

マテリアリティ評価の定義

(セクター別マテリアリティツールによる)



DISCLOSURE INSIGHT ACTION

目的：

企業の部門に関連する潜在的な環境影響の種類を最初にスクリーニングする

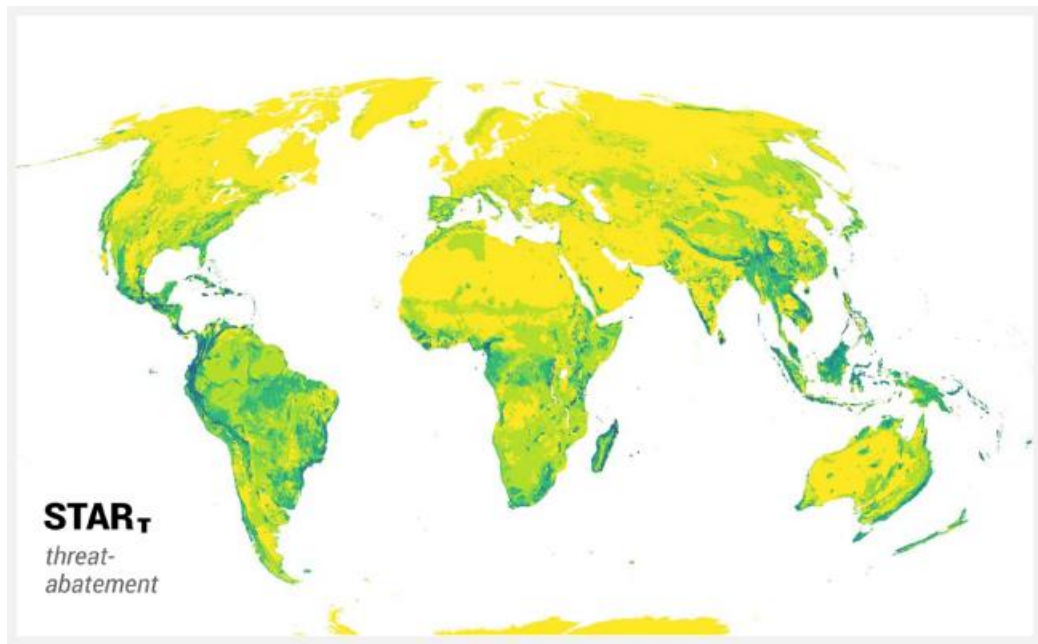
		ISICの説明。	牛や水牛の飼育	
		製造工程。	大規模	小規模
上流	土地・水・海の利用変化	陸域生態系利用	高い	高い
		淡水生態系利用	M	M
		海洋生態系利用	M	M
	資源開発	水使用量	M	M
		その他の資源利用	ND	ND
	気候変動	GHGs排出量	非常に高い	非常に高い
	公害	非GHG大気汚染物質	L	L
		水質汚濁物質	M	M
		土壌汚染物質	L	L
		固形廃棄物	M	M
	外来種・その他	ディスターブ	L	L
		生物学的変化／干渉	ND	ND
直接操業	土地・水・海の利用変化	陸域生態系利用	非常に高い	非常に高い
		淡水生態系利用	ND	ND
		海洋生態系利用	ND	ND
	資源開発	水使用量	非常に高い	高い
		その他の資源利用	ND	ND
	気候変動	GHGs排出量	高い	高い
	公害	非GHG大気汚染物質	高い	高い
		水質汚濁物質	M	M
		土壌汚染物質	M	M
		固形廃棄物	L	L
	外来種・その他	ディスターブ	ND	ND
		生物学的変化／干渉	M	M

圧力の尺度の特定

圧力を定量化するために使用できるデータの種類：

- 認証またはサプライチェーンのトレーサビリティ情報
- 製品または企業レベルのLCA
- 気候変動SBTのためのGHGデータ
- 水質影響データ
- 自然資本プロトコル（Natural Capital Protocol）の応用
- CDP、GRI、および/またはTNFDに報告された該当情報

自然の状態（State of Nature）とは

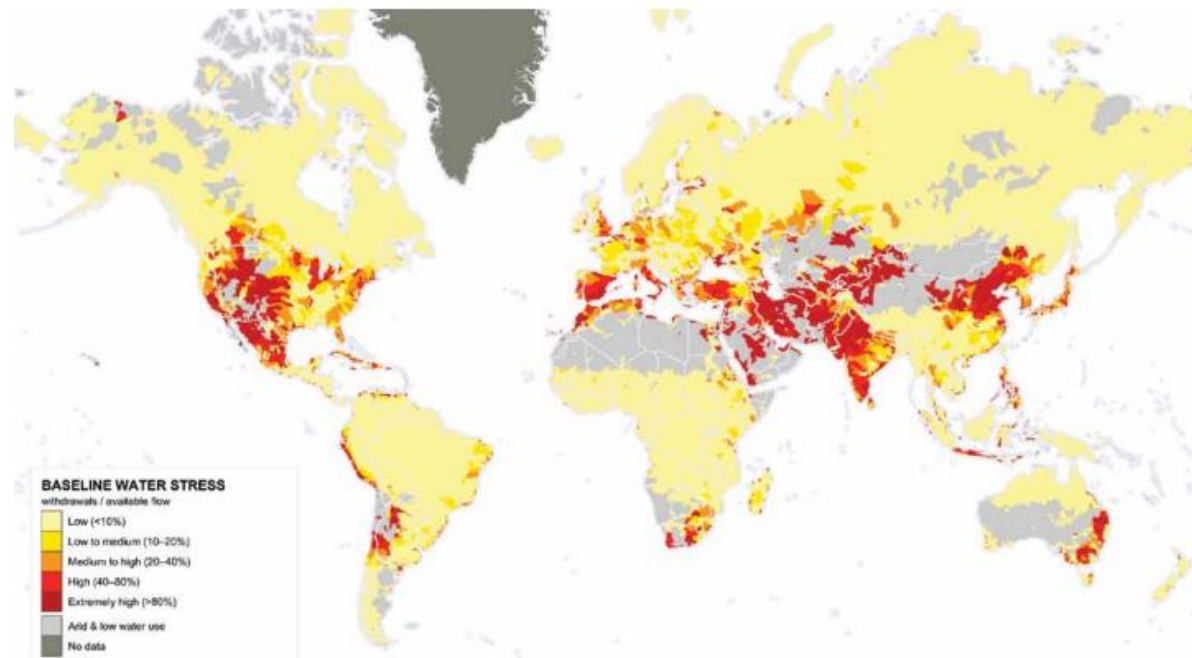


IBATによる生物種脅威軽減マップ

1圧力につき1つの自然の
状態データソースが必要

定義

圧力のかかる場所での自然の状態



WRIのAqueductによるベースライン水ストレスマップ

手順1 データ要求事項

直接操業

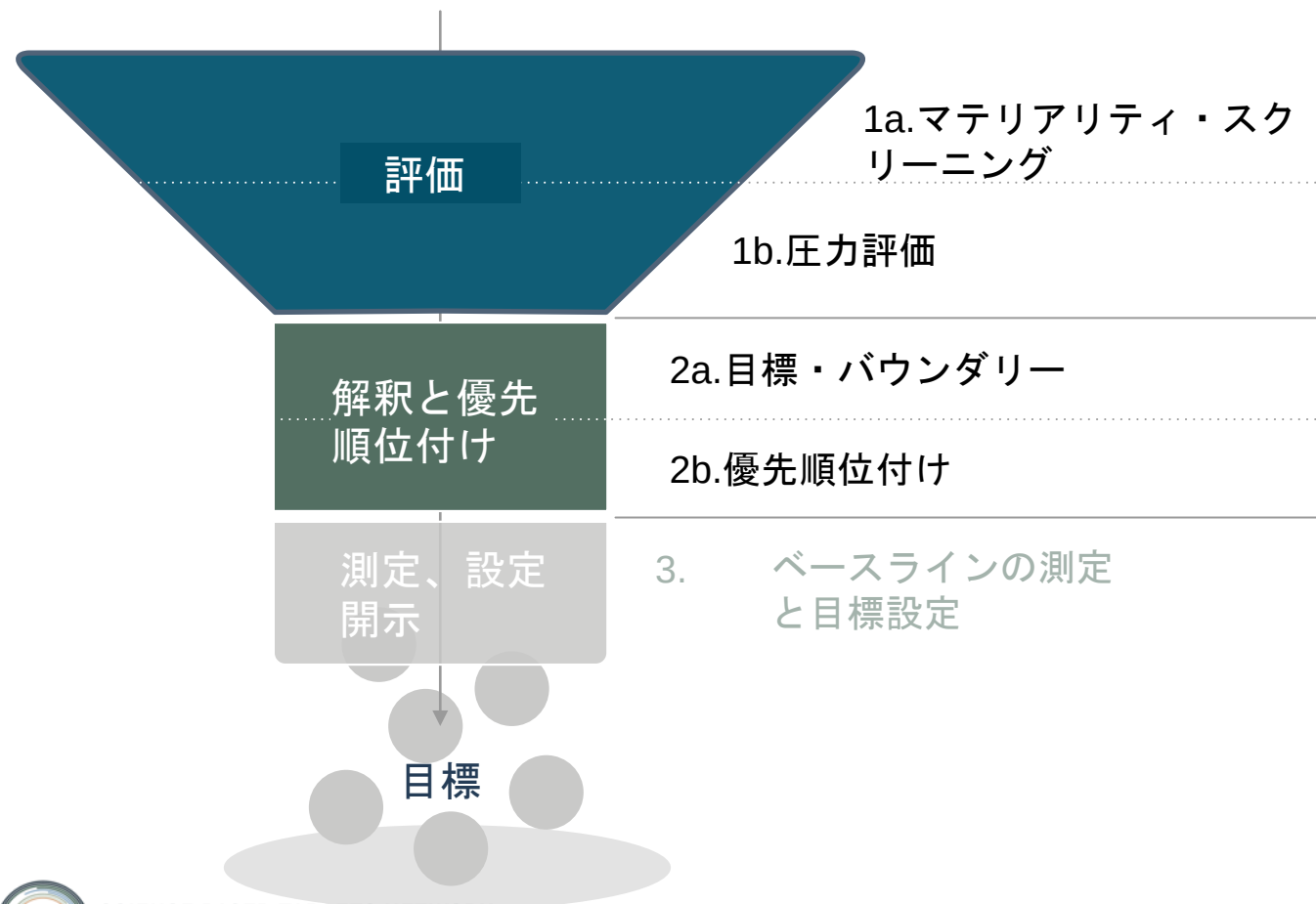
- 会社の経済活動のリスト（ISICの定義に沿ったもの）
- 直接操業の所在地一覧
- 圧力に関するデータ（直接測定したもの、またはモデリングにより推定したもの）
- 自然の状態（SoN）を場所毎、圧力毎にデータ化

上流サプライヤー

- 調達した物品およびサービスのリストと数量（ISICの定義に沿ったもの）
- 影響度の高い商品のリスト（数量と場所を含む）
- 圧力(Pressure)に関するデータ（直接測定したもの、またはモデルで推定したもの）
- コモディティ毎、場所毎、圧力毎の自然の状態のデータ

手順2：優先順位付け

どの影響に最初に取り組むべきかを特定する



1 自社ではどの拠点に目標を設定する必要があるか

2 自社ビジネスのどの部分から手をつけるべきか

手順2：優先順位付け

詳細版ガイダンスに含まれる具体的な内容

1. 必要とされるデータの種類

2. 下記の説明

- a. 各圧力やビジネスユニットに応じた目標バウンダリー決定
- b. 圧力別指標値の算出
- c. ロケーション（所在地）のランク付けと優先順位付け方法

3. 仮想のケーススタディ

4. 妥当性基準

目標バウンダリーとは

定義：各圧力区分の活動範囲と場所の全容

水使用圧力			
企業活動/ 購入した商品	数量	圧力	自然の状態 値(位置情報)
活動1	X	A	D
活動2	Y	B	E
商品1	Z	C	F
...			



各圧力に対して1つの目標バウンダリーの解析が必要。

目標バウンダリーの設定をすることで、圧力に対する企業活動の相対的な貢献度を決定します

圧力特有の指数値とは

定義

$$\text{圧力} \times \text{自然の状態値} = \text{指数値}(I_P)$$

目的：

自然の状態の各圧力に対する影響力を求める計算方法

各圧力に対して1回の解析が必要

次の手順：

各圧力について、計算で出された指数値に基づいてランク付けを行う

直接操業に関する1つの表

施設ID	活動内容	取水量 (m ³)	SoN - 水ストレス	指数値 (I _P)	順位
施設1	製造	Y	スコア	Y×Score	
...					

上流供給に関する1つの表

施設ID	活動内容	取水量 (m ³)	SoN - 水ストレス	指数値 (I _P)	順位
施設1	カカオの調達	Y	スコア	Y×Score	
...					

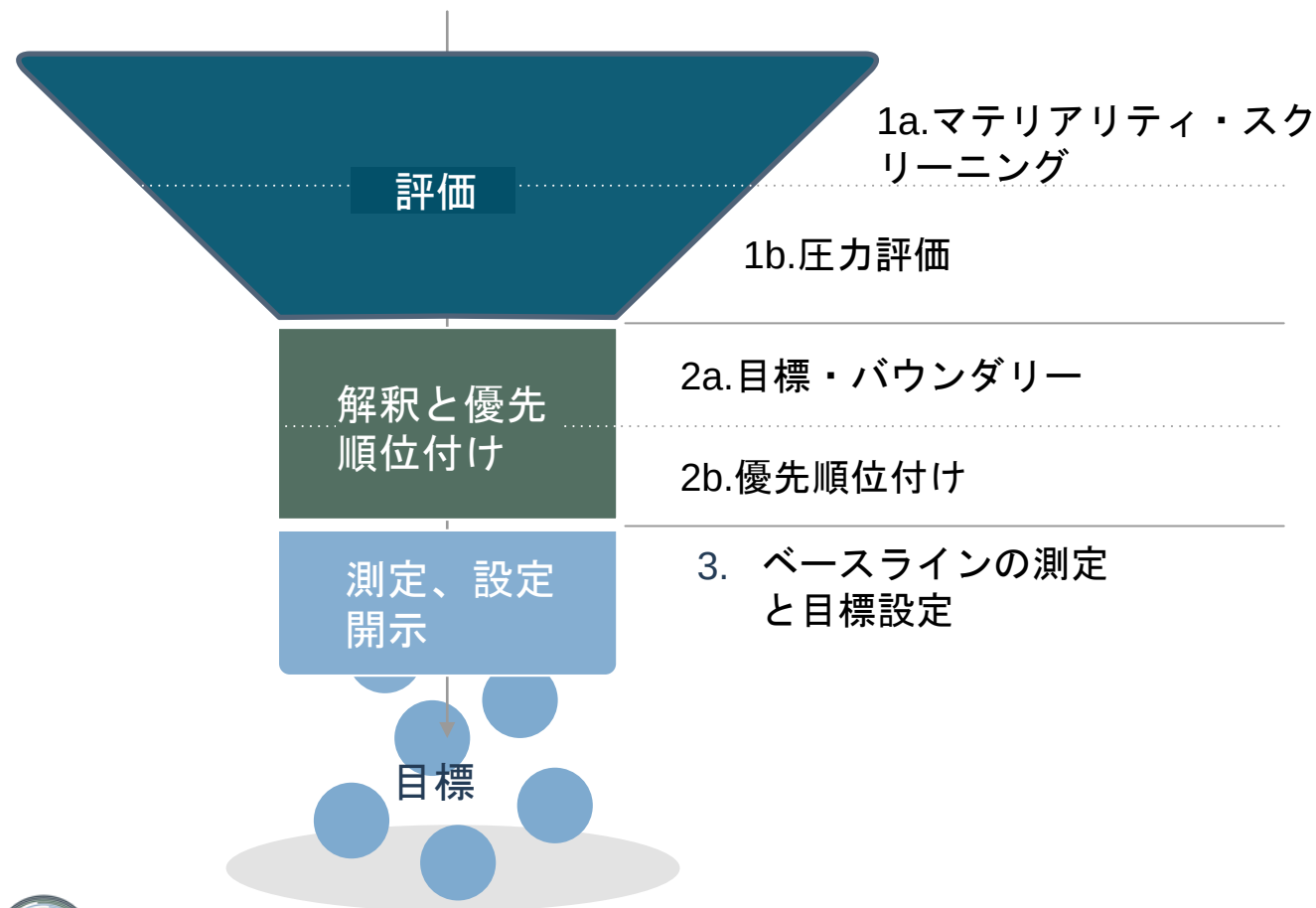
さらなる優先順位付けの方法



1. **エリアに基づくルール**：目標バウンダリー解析の結果、上位にランクされた一部の場所を優先する
2. **比例配分のルール**：全施設のうち、目標を設定する必要のある一部の施設を優先的に配分
3. **コベネフィットの観点**：ランク付けされたデータを用いて、複数の圧力項目において一貫して高い優先度を示す場所、経済活動、または商品/物品を特定

手順3：測定、設定、開示

ベースラインの算出と目標値の設定



1

重点分野の場合、目標の参考となるベースラインはどこか

2

重点拠点ごとにどのような目標を設定すればよいのか

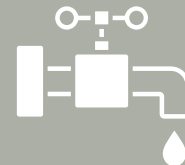
手順3：目標設定

目標設定例



- 水量

・ "X社は、〇年までに〇流域の取水量を
〇**ML/y**に削減する。"



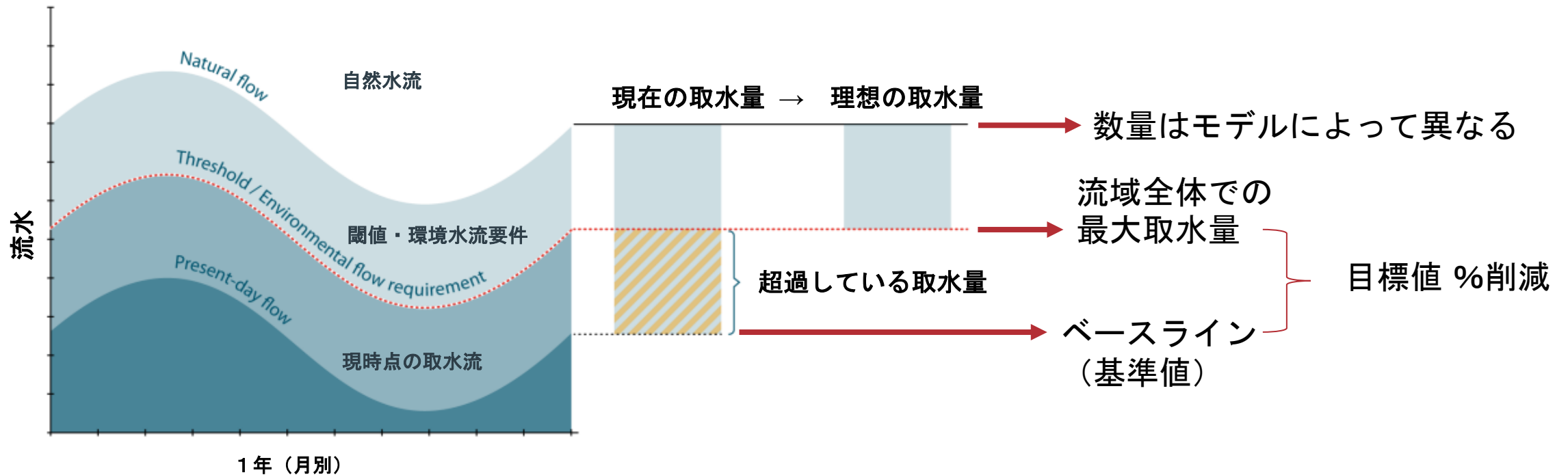
- 水質

・ X社は、〇年までに、〇流域の栄養
塩の負荷を〇**kgP**（または**N**）**/y**に
削減する予定です。

Step 3: 淡水の初期目標設定

ベースラインとは・・・
基準値のこと。水質と水量それぞれで定義が異なります。
(詳細はガイダンス参照)

水量における目標設定例：



Step 3: 淡水の初期目標設定

Step3の具体的な手順:

1. モデリング手法を定義するために、利害関係者を巻き込む
2. ベースラインの設定
3. 流域全体の最大取水量を決定する
4. 各社の目標を設定する

ステークホルダーの種類:

- 水管理機関
- 政府規制機関
- 科学者・学術関係者
- 現地の水関連NGO
- 地域社会・先住民族

モデルの種類:

- 現地で開発されたもの
(例：米国のTotal Maximum Daily Load (TMDL) モデルや英国のRiver Quality Planning (RQP))
- グローバルに展開されたモデル
(例：WRIのAquaduct)

手順3：目標設定 対象範囲

v1向け（2023年第1四半期）

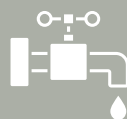
今後の展開について



水量

地表水の流れ
地下水位（現地）

地下水位（グローバルモデル）



水質

栄養塩汚染

有害化学物質
その他の水質項目



バリューチェーンの
範囲

上流
直接操業

下流



生物多様性・生態系

淡水の生物多様性
淡水生態系の転換



将来予測

将来シナリオの検討

まとめ

ネイチャーSBTs まとめ



目標設定から達成までの5手順：1評価・2順位付け・3計測/目標設定・4行動・5追跡

ネイチャーSBTs設定での新たなキーワード：圧力（Pressure）、自然の状態(State of Nature)、目標バウンダリー、指数値、ベースライン 等

今日からできること

- 手順1、2、手順3（淡水）のガイドスを確認
- 手順1、2から始める
- SBTNのコーポレート・エンゲージメント・プログラムに参加
- SBTNのニュースレターに登録して、目標の開発状況を把握

企業向け資料

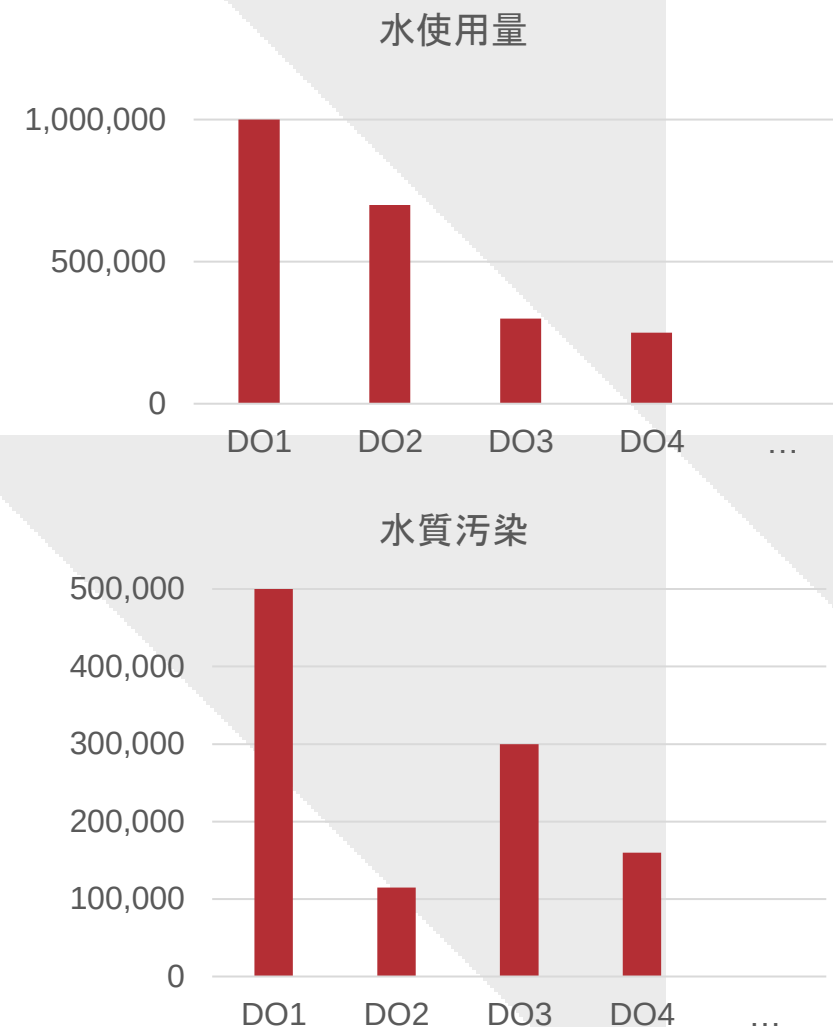
- [ネイチャーSBTs公式ホームページ](#)
- [ステップ3 測定、設定、開示のための技術ガイダンス-淡水SBTのパブリックコメント用ドラフト第1版（2022年9月）と淡水テクニカルQ&A資料](#)
- [ネイチャーSBTs紹介プログラム](#)：最新の技術開発に取り組んでいる世界中のサービスプロバイダを紹介します。サービス提供地域と言語による検索が可能です。
- [5段階の初期ガイダンス](#)：ネイチャーSBTsについての概要を5段階プロセスの簡単な紹介も含めた説明資料。[日本語仮訳あり](#)
- SBTネットワークおよびネイチャーSBTsに関する[詳細FAQ](#)
- Procter & Gamble、General Mills、Suntoryの[パイロットケーススタディ](#)

補足資料

手順1 仮想の事例一図解データ

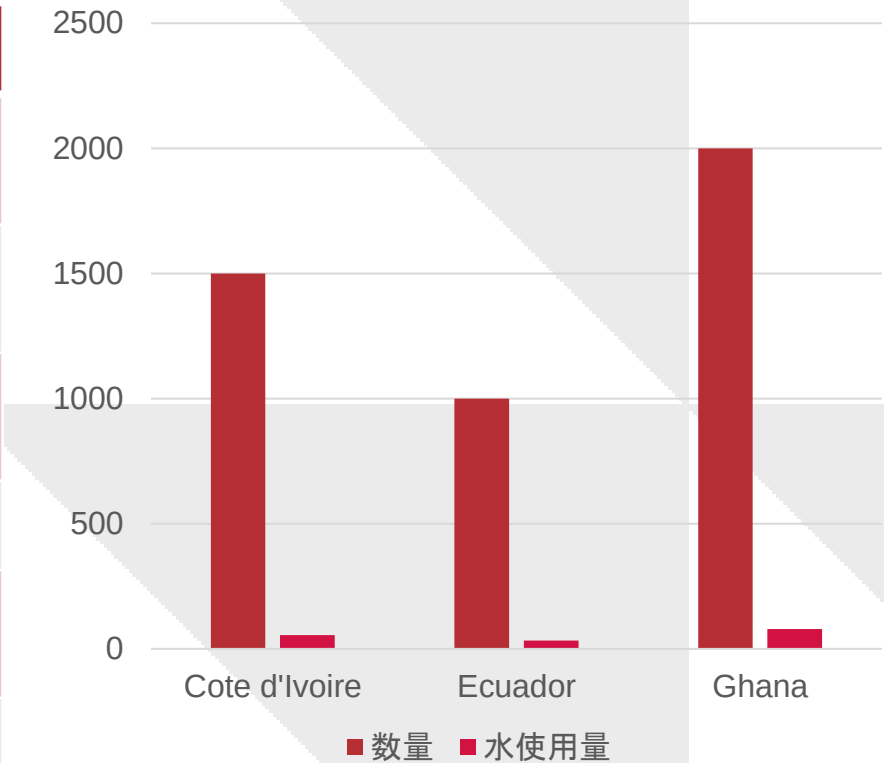
直接操業の淡水圧力の推定値*。

施設ID	施設での活動	所在地	水使用量 (m ³)	水質汚染 (kgP-eq)
DO1	その他の食料品製造、包装	ベルギー	1,000,000	500,000
DO2	その他の食料品製造、包装	フランス	700,000	115,500
DO3	その他の食料品製造、包装	英国	300,000	300,000
DO4	その他の食料品製造、包装	スペイン	250,000	160,000
...				



手順1: 仮想の事例一図解データ

上流淡水圧力の推定値*				
コモディティ	数量（トン）	所在地	水使用量 (m ³)	水質汚染 (kgP-eq)
カカオ	1500	コートジボワール	55	40
	1000	エクアドル	34	75
	2000	ガーナ	80	60
トウモロコシ	25,000	ベルギー	600	25
	30,000	アメリカ	580	80
...				



Q:淡水とは、水道水を含まないのですか。

A:含みます。例えば、オフィス用水は、「水道水」の利用形態の一つです。水道水（すなわち電力会社から供給される水）には、製造や食品／飲料加工で使用する水も含まれることがあります。ネイチャーSBTsのガイダンスでは、バリューチェーンに沿った使用量の「ホットスポット」を特定するために、ウォーターフットプリント法を使用することを推奨しています（[淡水ガイドンスドラフト14ページ表2](#)）。ウォーターフットプリントネットワークについては下記ガイダンスをご参照ください：

<https://waterfootprint.org/en/>

Q:ネイチャーSBTsに関して目標の対象となる地域を特定する際は、圧力と自然の状態を両方考慮して優先順位付けをするという理解でよろしいでしょうか。例えば、同じ水量を使用する工場が各地に存在する場合、Aqueductなどのツールを利用し、水リスクが高い地域を優先的に対象とするべきという理解でよろしいでしょうか。

A:はい、そうです

Q:SBTNについてパイロット企業の1社（グローバルで計3社）現時点でコーポレートエンゲージプログラムはグローバルで110を超える企業 とのことですが、一覧はSBTNのウェブサイトなどで検索できるのでしょうか。

A:はい、[ウェブサイト](#)で観覧いただけます

Q:ネイチャーSBTsの手順3でいう「ベースライン」は、具体的にどのような事/ものを指しますか。

A:ベースラインについては、[Technical Guidance for Step 3: Measure, Set & Disclose - Initial Freshwater SBTs Draft for Public Comment September 2022](#)（[ステップ3 測定、設定、開示のための技術ガイダンス-淡水SBTのパブリックコメント用ドラフト第1版（2022年9月）](#)）の3.2（P21）をご確認ください。水量については3.2.2、水質については、3.2.3をご参照ください。設定を検討する企業が知っておくべき最も重要な構成要素としては、以下の通りだと思われます。

1) ベースラインは場所を特定する必要がある（淡水の場合は流域レベルのデータに基づく） 2) ベースラインは5年分の過去のデータに基づいて設定する（可能な場合）

Q&A

Q:ネイチャーSBTsで、海外の工業団地の中であれば圧力は「無し」と判定してもよいのでしょうか。地下水の汲み上げは考慮する必要があると思いますか。

A: 基本的には場所にかかわらず、手順1,2のガイドに沿って圧力などの判断を行ってください。そのうえで圧力がLow,あるいはVery low（非常に低い）と結果として出た場合はなしということになるかと思われます。

Q:SBTNの取り組みに積極的に関与している日本企業の総数は何社くらいですか。未上場を含めて10社以上ありますか。

A:現在正式版の第1版ローンチ前であることもあり、特に日本で取り組みを積極的に行っている企業となると限られていますがパイロット企業の1社（グローバルで計3社）、そして具体的な社数はわかりかねますがエンゲージメントプログラムに何社か日本企業が参加いただいていることは存じ上げております。現時点でコーポレートエンゲージプログラムはグローバルで110を超える企業が参加しております。

Q:ネイチャーSBT目標設定時においては、影響低減にフォーカスし、回復の観点は組み込まなくて良いということになりますでしょうか。

A:復旧・復興の測定方法は手順4のガイダンスの一部になると思いますが、現段階では2024年までリリースされる予定はないようです。

Q:目標に対する評価の精度ははどのように判断されるのでしょうか。グローバルでの認証機関からの認証等定められるのでしょうか。

A:各手順に問題がないか、次の手順に進んでよいかの判断をだれがどのように行うのかにつきましては、ネイチャーSBTsガイダンス第1版が公表された際に合わせて方法論に記載されるものと思われます。

Q:1圧力につき1つの自然の状態データソースが必要とのことですが、「1圧力」のレベルは、例えば「土地・水・海の利用変化」のレベルでしょうか。それとも「陸域生態系利用」のレベルでしょうか。

A: 「陸域生態系利用」のレベルが正しいです。別の言い方をするのであれば、土地利用の変化、淡水利用の変化、海の利用の変化は、3つの別々の圧力とみなされます。これについてはネイチャーSBTs手順1ガイダンスの表7をご参照ください。「生態系利用による利用面積...」

Q:圧力について：「生態系の利用と利用変化」の中にある「淡水生態系の利用」と資源開発にある「水利用」は同じ部分が大き
いと思いますが、違いは何でしょうか。

A:淡水生態系の利用というのは具体的な生物（例えば、魚など）の利用、水利用というのは水資源そのものの利用を指します。
水牛の飼育であれば、陸上の生態系の利用ということになります

Q:淡水の対象は飲料などでしたが、それ以外のセクターでは淡水に関するマテリアリティのスクリーニングや目標設定は不要と
いうことでしょうか。

A:少なくともネイチャーSBTsでは全セクターに手順1を行っていただくことを推奨しています。2023年に公表予定のネイチャ
ーSBTsガイダンス第1版で発表予定の方法論の対象セクターは限られていますが、2025年に向け対象セクターが追加されて
いく予定です。

Q:建設土木業のような、自治体などが発注者となり、森林の喪失を伴うトンネルや道路の施工については、建設土木業者が自然
資本にインパクトを与える主体となるのでしょうか。あるいは事業主である自治体はその主体となるのでしょうか

A:この場合、自治体は（ライフサイクルアセスメントに相当する）「使用」段階とみなされるため、現在のネイチャーSBTsの対
象外であると考えられます。つまり、どの企業が実際の建設活動を行うにせよ、自然や自然資本に対する圧力は発生すること
になります。

Q&A

Q: マテリアリティ評価の結果が「低い」場合、目標は必要ないのでしょうか。

A: ガイダンスの中で、目標のための最低閾値を決定するためのプロセスがあります。閾値以下の圧力の場合は目標を持つ必要は必ずしもありません。

Q: GHG プロトコル for Nature に相当するものは何ですか。

A: 自然界からの排出に関して、現在最も優れているのは、SBTiが最近発表したFLAG (Forest, Land, and Agriculture)手法です。SBTiが最近発表した方法論です。その他の自然や生物多様性に関しては、自然資本プロトコル (Natural Capital Protocol) をお勧めします。

Q: なぜマテリアリティ分析では下流がカバーされないのでしょうか。製品・サービスのデザインも評価すべきでは。

A: ネイチャーSBTsの次のバージョンでは、下流への影響も含める予定です。その中で、設計の効率性は考慮されるかもしれませんが。SBTNのコーポレート・エンゲージメント・プログラムに参加することを勧めます。会計方法の設計を支援するために、SBTNの企業参画プログラムに参加することをご検討ください。

Q: 銀行等の金融セクターでポートフォリオレベルで目標を検討する場合、現実的にはどのようになるのでしょうか。また、ポートフォリオレベルでの目標の単位を例示してほしい。

A: SBTNは、投資家ワーキンググループの設立を進めており、これには資本連合とUNEP-FIが参加しています。この目標設定の重要な側面に取り組むため、資本連合とUNEP-FIが参加する投資家ワーキンググループを設立しているところです。ぜひSBTNのコーポレート・エンゲージメント・プログラムに参加することをご検討下さい。SBTNのコーポレート・エンゲージメント・プログラムに参加するか、SBTNニュースレターに登録して活動を把握することをお勧めします。

Q&A

Q: STARでの報告が“自然の状態”に対応するためにどのように使用されるのか理解できません。このツールは、KBA、PA、レッドリストに関する予備的な分析に基づき、行動のためのレバーを提供するものという理解です。この点について詳しく教えてください。

A: 自然の状態の判断の目的は、圧力がかかっている場所での自然の状態を評価することです。そのため、種が最も危険にさらされている、或いは脅かされているような地域では、圧力の値が大きくなります。

STARの使用に関して、これは世界的に適用可能なツールであり、企業が事業を行っている場所、またはその場所での生物多様性の状態を決定するためのものです。

STARの使用により、企業の事業所や上流供給地における生物多様性の状態を判断するために世界的に適用できるツールとなります。IBATのHPより引用すると、「企業、政府、市民社会、その他のアクターが、絶滅を食い止めるための世界的な目標に向けた意思決定を行う際の参考となる。」とあります。このように、STARは絶滅危惧種に利益をもたらす可能性のある行動を特定するのに役立ちます。また、科学的根拠に基づく生物多様性目標の設定や、2020年以降の生物多様性フレームワークに関連するコミットメントを支援や、生物多様性の科学的目標の設定や、2020年以降の生物多様性フレームワークに関連するコミットメントをサポートします。STARは、以下の資料から得られた絶滅危惧種の分布、脅威、絶滅リスクに関するデータから算出されます。

IUCN Red List of Threatened Species™（国際自然保護連合絶滅危惧種レッドリスト）から得られた絶滅危惧種の分布、脅威、絶滅リスクに関するデータから算出されています。

STARはIBATで自動的に分析されるため、使い方や解釈も簡単です。

STARを利用するメリット：

- ・ IBATの施設別レポートでは、対象地域のSTARの推定値を算出することができます。
- ・ IBATマルチ施設レポートを使用して、ポートフォリオ/サプライチェーンレベルで幅広く理解することができます。さらに、生ラスターレイヤーはグローバルレベルおよび5kmのローカルスケールの粒度でダウンロードすることができます。
- ・ STARは全世界で標準化されており、すべてのグリッドセルが同じ客観的な基準で直接比較することができます。また、STARは拡張性があり、ユーザーは世界中の施設、地域、国にまたがる潜在的な貢献度を合計することも可能です。さらにユーザーは世界中の施設、地域、国にまたがる潜在的な貢献度を合計し、自然保護活動への全体的な機会を決定することができる点でも非常に有用です。

Q: ある地域のあらゆる種類の活動に依存する場合、目標バウンダリー設定をするのは大変困難です。例えば、水であれば農業に一定の水量を許可する法律があります。工業会社として、この情報をどのように入手すればよいのでしょうか。

A: まず、明確にしておくべきこととは、ある自然への圧力について、それに自社の活動が、相対的にどの程度貢献しているかを決定することです。そして、それは、圧力がかかっているすべての場所での自然の量と状態によります。(つまり、同じ地域でも、他の活動に関する情報は、企業の目標バウンダリーを決定するために必要ではありません)。流域などでの活動は、目標設定の手順で必ず登場します。

企業は、地域のさまざまなステークホルダーを巻き込んで、適切な目標パラメータを決定する必要があります。水資源の場合、適切なステークホルダーには、水管理機関/流域当局、政府規制当局、科学者/学者、水に関する現地NGO、または現地コミュニティ/先住民族が含まれます。

これら利害関係者のいずれもが、関心のあるパラメータに関するデータを提供できない場合、例えば水の場合はガイダンスで Aquaduct のようなグローバルモデルを使用することを推奨しています。

Q: 水量・水ストレスについては、土壌水分も3番目の基準として非常に重要ではないでしょうか。これは、OECDが気候変動へのエクスポージャーの評価に関する最後の報告書で選択した基準でもあります。

A: 淡水ハブは、CDP、WWF、WRI、TNC、Pacific Instituteの代表者によって運営されており、水量への圧力や測定を定義するために、最新の科学と研究を収集し、調整を行っています。また、水量への圧力や測定に関しては、コーポレート・エンゲージメント・プログラム（CEP）のメンバーも審査し、検証します。万が一重要な要素が欠落していると思われる場合には、貴社も、SBTネットワークのCEPの貢献者（Contributer）になることをお勧めします。

Q: 自社には、すでに水資源戦略プログラムがあり、サプライチェーンにおける水に関する持続可能性の目標があります。そういった企業も含め、ほとんどの企業が、時間の経過とともに、水に関するSBTNとの整合性に移行していくと思われますか。

A: はい、それが目標です。既存のサプライチェーンの水に関する目標をSBTNのガイダンスの要素にマッピングすることをお勧めします。

Q: 各圧力に対して複数の自然の状態値を持つことは可能ですか。可能な場合、手順2の乗算で最終スコアを得るために、どのようにそれらを集計しますか。

A: 当該SoNの詳細を知る必要がありますが、できるだけ地理的に特定された自然の状態（SoN）を選択することをお勧めします。例えば、ある流域にある製造施設を評価するのであれば、その流域に最も特化した自然の状態（SoN）を使うことをお勧めします。

Q: SBTネットワークは、TNFDのフレームワークの開発に関与しているのでしょうか。方法論の整合性を図ることができますか。

A: SBTネットワークはTNFDのコアナレッジパートナーの1つです。TNFDはSBTネットワークと緊密に連携し、パブリックコンサルテーション中のSBTNの資料等を参照しつつ、TNFDの目標設定ガイダンスの草案を作成しています。これは2022年11月にリリースされたTNFDフレームワークベータ版第3版の一部となりました。TNFDは、これを、SBTネットワークと緊密に連携しながら、更新を行い、2023年9月に発表予定のTNFDフレームワーク完成版第1版に反映させる予定です。また、SBTネットワークとTNFDの関係については、SBTネットワークのFAQをご参照ください。

Q: 土地利用に関する指標は今のところ検討対象外なののでしょうか。また、種と生息地の指標についてはこれまでのところ聞いていません。今のところは、SBTネットワークは生態系状態にのみ注目しており、生物多様性の開示についての指標の検討はまだでしょうか。

A: 土地の利用と変化については、2023年初頭にリリースされる、ネイチャーSBTガイダンス第1版で扱われる予定です。生物多様性に関する指標は陸上、淡水、海洋の「生態系タイプ」ごとの生物多様性指標は、生物多様性ハブ（すなわちワーキンググループ）によって開発されており、後のバージョンに含まれる予定です。

Q: 目標が地域レベルに言及することは理解していますが、これらの圧力はすべて地域的なものであるため、それは妥当なことです。企業レベルでの集計は可能なのか、それとも各企業が運営する施設ごとにSBTを設定するのか。

A: 方法にもよりますが、施設が同じような場所にある場合（例えば、同じ流域や生態系タイプにある場合）には、集計の可能性があります。しかし、全体として、目標は場所ごとになります。

Q: マテリアリティ評価について、企業が現在の意思決定の指標やプロセスと調整している例を聞いたことがありますか。

A: どのような意思決定の指標やプロセスを指しているのか（ビジネスプロフェッショナルなのか、ESGなのか、その他ののか）、よくわかりませんが、SBTNでは、現在の意思決定の指標やプロセスに照らし合わせています。SBTNには、P&G、サントリー、General Millsの3つのケーススタディがあり、実現したメリットと課題が紹介されています。の3つのケーススタディがあり、実現したメリットと課題が紹介されています。

Q: CDPの開示とどのように関連するのでしょうか。

A: SBTネットワークは、企業がCDPのような開示プラットフォームに環境データを開示することを奨励しています。また、GRI、SASなどの基準に従って、環境データを開示することを推奨しています。SBTネットワークはパートナーと協力して、これらの開示プラットフォームから要求されるデータ、および進化する報告書を通じて、環境データを確実に開示するよう取り組んでいます。

。CDPはSBTNの中核的なパートナーであり、さまざまなレベル（概念的および技術的な開発など）でその作業を支援しています。SBTNの評議会への参加を通じての包括的なビジョン）。CDPは現在、SBTNをその開示プラットフォームにどのように統合することが最善かを検討中です。